Creative Enzymes®

ネイティブ環境DNA α-フコシダーゼ

Cat. No. NATE-0749

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	酵素学において、アルファ-L-フコシダーゼ（EC 3.2.1.51）は、次の化学反□を触媒する酵素です：アルファ-L-フコシド + H2O ↔ L-フコース + アルコール。したがって、この酵素の二つの基質はアルファ-L-フコシドとH2Oであり、二つの生成物はL-フコースとアルコールです。この酵素は加水分解酵素のファミリーに属し、特にO-およびS-グリコシル化合物を加水分解するグリコシダーゼに分類されます。この酵素はN-グリカンの分解およびグリカン構造の分解に関与しています。
別名	アルファ-L-フコシダーゼ フコヒドロラーゼ; アルファ-フコシダーゼ; EC 3.2.1.51; アルファ-L-フコシダーゼ

製品情報

種	環境DNA
由来	独自の環境DNA
EC番号	EC 3.2.1.51
CAS登□番号	9037-65-4
最適pH	適切なpH範□は約6-7で、最適は約6.5です。
最適温度	酵素は比較的活発な温度範□（60-70°C）で、最適温度は約65°Cです。
特異性	フコイダンは、フコースを含む硫酸化多糖類のグループであり、(1→3)-結合したアルファ-L-フコピラノースまたは交互の(1→3)-および(1→4)-結合したアルファ-L-フコピラノース残基で構築された骨格を持つ分子を含みますが、(1→6)-ベータ-D-ガラクトおよび/または(1→2)-ベータ-D-マンノピラノースユニットで構築された骨格を持つ硫酸化ガラクトフカンも含まれ、糖残基の分岐やさまざまな置換を含む場合があります。海藻由来のフコイダンは、栄養補助食品としての利用が見出されており、人間における潜在的な生理活性機能を持つ可能性があるとされています（Ale et al 2011）。
単位定義	1単位の活性は、指定されたアッセイ条件下で1分間に1μmolのp-ニトロフェノールを放出する酵素の量として定義されます。